

Daily Market Report

ナフサ C&F JAPAN 評価値(ドル/MT)

C&F JAPAN 評価値

6月前半着	1,049.25	(1.75)
6月後半着	1,044.50	(1.75)
7月前半着	1,041.00	(1.75)
7月後半着	1,038.50	(1.75)
8月前半着	1,036.25	(1.75)

OPEN SPEC NAPHTHA スポット取引プレミアム評価

(千葉到着ベース)	COUNT30日前	COUNT45日前
5月後半着	+10.50	+6.38
6月前半着	+7.50	+4.50
6月後半着	+5.13	+2.75
7月前半着	+3.81	+1.63

算出時の原油価格(ドル/bbl)

MONTH	JUN
WTI	108.33
BRENT	121.28

本日午前 10 時時点での理論上の計算値、()内は前営業日の評価値との比較

[マーケットコメント]

19 日のナフサ C&F JAPAN は 1033.125 ドルと反落、クラックスブレッドは下落。前々日のプラッツ後に纏まった売りが出ていることや、欧州市場でも利食い売りが見られたことで、アジア市場はベアなムードで始まった。マージン悪化を背景にクラッカーの減産の現実性が高まり、ナフサ需要が悪化するとの懸念が強まっている。また、一部定修に入っていた中東のリファイナリーが稼働を始め、スポット販売が出始めている。アジアのファンダメンタルズは需要減・供給増により、逼迫した状態が幾分緩むとの見方がクローズアップされた。プラッツタイムは、売り先行で始まると利食い売りを巻き込み、クラックスブレッドは一週間ぶりに下落した。一方、インターマンスブレッドは、積極的に買い上がりを見せたことで、プラッツ後は底堅い動きとなった。本日のアジア市場は、再び買い手優位の展開が見込まれる。アジアのクラックスブレッドが下落したにもかかわらず、欧州市場が堅調に推移したことや、アジアではタイトな状況が続くとの見方もあり、ブルな展開が想定される。

ナフサ MOF / 国産ナフサ価格予想値および評価値

	ナフサ MOF 価格				国産ナフサ価格	
	ドル/MT	ドル/円	円/KL	速・確報値/(前日比) 円/KL	予想値/評価値 円/KL	速報値/(前日比) 円/KL
10-Oct	700.07	83.42	40,587	40,712		
10-Nov	747.36	81.39	42,273	42,222		
10-Dec	796.85	83.61	46,305	46,634		
10-4Q			43,079	43,101	45,100	45,100
11-Jan	857.45	82.91	49,410	49,202		
11-Feb	882.61	82.33	50,505	50,204		
11-Mar	891.37	82.49	51,101	(±0)		
11-1Q			50,120		52,100	(±0)
11-Apr	983.18	82.45	56,338	(2)		
11-May	1,036.23	82.86	59,676	(61)		
11-Jun	1,051.43	82.87	60,559	(12)		
11-2Q			58,858		60,900	(100)
11-Jul	1,047.44	82.89	60,341	(18)		
11-Aug	1,043.70	82.91	60,140	(19)		
11-Sep	1,040.82	82.93	59,989	(20)		
11-3Q			60,157		62,200	(100)
11-Oct	1,038.63	82.95	59,881	(21)		
11-Nov	1,036.63	82.98	59,785	(22)		
11-Dec	1,034.63	83.01	59,691	(23)		
11-4Q			59,785		61,800	(±0)
12-Jan	1,032.55	83.05	59,598	(25)		
12-Feb	1,030.11	83.09	59,486	(26)		
12-Mar	1,027.17	83.13	59,344	(24)		
12-1Q			59,476		61,500	(±0)

予想値は太字での表記、MOF(国産)価格の評価値は予想値ではなく本日午前 10 時時点での理論上の計算値

(前日比)は前営業日の予想値および評価値との比較、換算比重は 0.695、為替レートは実勢為替相場に基づいた通関レートおよび為替先物マーケットから算出

[ナフサ MOF/国産ナフサ価格予想値および評価値コメント、マーケットコメント]

本日午前 10 時時点の 11 年 1Q 国産ナフサ予想値は 5 万 2100 円と予想値に変更はない。本日のナフサ C&F JAPAN 評価値は小幅な下落が想定されるが、為替通関レートが円安に振れたことが優勢となり、MOF 評価値は総じて小幅に値を上げることが見込まれる。11 年 2Q 国産ナフサは前営業日比 100 円高の 6 万 0900 円の評価。

11年1Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



11年2Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



太線は弊社予想値および評価値の推移、細線はナフサ C&F JAPAN に為替および比重(0.695)を乗じた数値の推移

Daily Market Report

原油・石油製品相場(前営業日)

Crude Oil(ドル/bbl)

		close	chg
NYMEX / WTI	MAY	108.15	(1.03)
	JUN	108.28	(0.59)
ICE / BRENT	JUN	121.33	(0.28)
	JUL	121.03	(0.27)

Oil Products(セント/gal) (ドル/MT)

		close	chg
NYMEX / RBOB	MAY	323.31	(1.97)
NYMEX / Heating Oil	MAY	315.85	(2.43)
ICE / Gas OIL	MAY	1,000.25	(4.50)

マーケットコメント

19日の原油相場は、ロンドン市場は小幅続落、NY市場は反発。ドル安を背景に買いが優勢の展開となった。この日納会を迎えたWTI期近5月限は、前日比1.03ドル高の108.15ドルで納会落ちした。

米国の原油在庫が7週連続で増加するとの予想もあり、市場のムードはベアな状態にあったが、ドルが対ユーロで下落したことを切欠に買い優勢へと転じた。欧州中央銀行(ECB)が利上げを実施するとの見方から、外為市場ではユーロ買いが先行した。対ドルでも上昇したことで、ドル安を背景に原油相場に買いが入った。また、株価が上昇したことも支援材料に。強い住宅指標や企業の好業績を材料に株式市場は反発した。このほか、前週末に実施されたナイジェリアの大統領選挙結果をめぐる暴動への懸念なども、買いに繋がったとの声が聞かれている。ただし、相場を大きく押し上げるだけの材料に乏しく、納会事情絡みの買いに支えられた感が強い。

トピックス

「ポリマー輸入品(アジア・スポット市況連動)国内需要家渡し想定値」

アジアのポリマー市況は総じて小確り。オレフィン系ポリマーはほぼ横ばいで、スチレン系ポリマーはABSを中心に概ね上昇する動きとなっている。

オレフィン系ポリマーは総じて小動き。ポリエチレン(PE)は、C&F JAPAN 想定値ベースで前週比変わらずから10ドル高。昨年10月から4回目となる中国の利上げの影響から、中国のエンドユーザーの引き合いが低下している模様。高水準な在庫もあり、需給ファンダメンタルズは総じてベアであり、一部のサプライヤーは欧州へと玉を向けているとの声も聞かれている。三菱化学の鹿島も来月下旬から順次稼働を再開する予定であり、供給面からの不安材料に乏しいことから、上値重く推移する可能性が高い。一方のPPは前週比変わらずから5ドル高。買い手先行の流れではあるが、決め手材料の乏しい状況にあり、また実需が伸びている訳ではないことから、積極的な購買に動いてはいない。定修入りしているアジア域内のPPプラントは多いが、今後順次再稼働する予定であり、供給量が増えることが見込まれる。

スチレン系ポリマーは総じて小高い。ポリスチレン(PS)は、前週比変わらずから20ドル高と続伸している。中国の建築資材向けのEPS規制が強化されるとのことで下落していたが、ここにきてその規制が緩和されることが明らかとなり、EPS需要に対する楽観的な見方が買いに繋がっている。また、原料スチレンモノマー(SM)市況が上昇したこともサポートされている。一方のABS市況は前週比30ドル高と反発している。原油・ナフサ高から原料ブタジエン市況が強含みで推移しており、原料高に牽引される格好で値を上げている。ただし、インフレリスクの抑制策として中国が利上げを実施したことで、悲観的な見方の市場参加者が増えている点には注意が必要である。

なお、国内需要家渡し想定値に関しては、アジア市況は総じて小幅に値を上げているものの、為替レートが前週から1.56円の円高ドル安に振れたことが影響し、軒並み値を崩すことが想定される。(想定為替レート:1ドル=83.45円)

ポリマー	C&F Japan(主要港) 5-6月着(ドル/MT) 想定算出基準	DDP(主要港から50km圏内大口需要家渡し) 5-8月渡し(円/kg)			
		20ft. コンテナ直送		4tトラック配送	
		特惠国産	非特惠国産	特惠国産	非特惠国産
PP (HOMO)	1,685 (5)	153 (2)	160 (2)	158 (2)	166 (2)
PP (COPOLYMER)	1,730 (±0)	156 (3)	159 (3)	161 (3)	165 (3)
LDPE	1,715 (±0)	155 (3)	163 (3)	161 (3)	169 (3)
LLDPE (Comonomer 5%以上)	1,415 (±0)	128 (2)	131 (2)	133 (2)	136 (2)
HDPE	1,420 (10)	129 (1)	136 (2)	135 (1)	141 (2)
GPSS	1,570 (±0)	142 (3)	150 (3)	148 (3)	155 (3)
HIPS	1,760 (20)	159 (1)	163 (1)	165 (1)	169 (1)
ABS	2,310 (30)	207 (1)	213 (1)	213 (1)	218 (1)

()内は前週の想定値との比較

ポリオレフィン:17MTパレット付き(20ftコンテナあたり)X6コンテナ(輸入)、PS・ABS:17MTパレット付き(20ftコンテナあたり)X2コンテナ(輸入)、いずれもフリータイム内搬出、20ftコンテナ直送(輸入後2週間以内)は、海上保険、関税、CHC、D/O FEE、通関料、乙仲手数料、コンテナドレージ、商社マージン他諸経費等を考慮し算出

4tトラック配送は、倉庫保管期間を約3ヶ月とし、上記に加え4t車チャーター料、デバン入出庫料、倉庫保管料等を考慮し算出
経済連携協定のある国において、関税率がWTO協定、GSP等と異なるものはこの限りではない

「ポリスチレン樹脂値上げへ = PS ジャパン」

PSジャパンは18日、ポリスチレン樹脂の価格に関して改定を実施することを決め、ユーザーへの説明および改定交渉に入ったことを明らかにした。価格改定幅は、GPグレードがプラス15円/kg以上、HI・コポリマー・難燃グレードがプラス20円/kg以上で、実施時期は5月1日出荷分より。原油ならびにポリスチレンの主原料であるナフサ、ベンゼンは騰勢を続け、主原料のコストは大幅に上昇している状況にあり、また、合成ゴムをはじめとする一部の副資材の調達コストも急激に上昇している。コスト上昇を全て自助努力で吸収することは極めて困難な状況にあるため、樹脂価格の改定を実施する。

Daily Market Report

「合成ゴム値上げへ = 日本ゼオン」

日本ゼオンは18日、合成ゴムの販売価格に付いて改定することを明らかにした。対象製品と改定幅は、ESBR 非油展がプラス31円/kg、ESBR 油展がプラス27円/kg、SSBR 非油展がプラス33円/kg、SSBR 油展がプラス30円/kg、BRがプラス42円/kg、NBRがプラス44円/kg、HNBRがプラス56円/kg、PBがプラス37円/kg、IRがプラス26円/kg、ACRがプラス44円/kg、CHRがプラス31円/kg、ESDがプラス31円/kg、CMがポリマー価格改定幅および副資材の価格改定幅に従って改定。改定時期は4月21日納入分より。ナフサ価格が先般の価格改定時に比べ高水準となっており、C4 留分をはじめ合成ゴムの原料も高騰。今後もさらなる上昇が予想されるなか、懸命のコスト低減努力を実施するも、製造コストの高騰は自助努力の限界を超えており、安定的な生産や供給を継続するため、製品価格の改定に踏み切らざるを得ないと判断した。

「中国でプラスチック用添加剤のプラントを新設 = ADEKA」

ADEKAは18日、中国江蘇省常熟市の現地法人である艾迪科精細化工有限公司(AFCC)にて、プラスチック用添加剤の生産設備新設を決定したことを明らかにした。新設を決定したプラスチック用添加剤の種類は高機能酸化防止剤で、生産能力は1500トン/年、2013年4月の営業運転開始を予定している。投資額は10億円を予定。酸化防止剤は、新興国を中心に今後も大きな伸びが見込まれることから、今般中国での新設を決定した。高機能酸化防止剤の生産能力を増強し、性能優位性に加えコスト競争力強化をアップすることで、今後需要増が見込める中国やインドなどでの販売を加速させる。

「BPA 生産能力拡張 = 錦湖 P&B 化学」

韓国化学大手錦湖 P&B 化学は、ビスフェノール A(BPA)の生産能力を15万トン増設し45万トン/年にすることが明らかとなった。アジア市場のポリカーボネートの需要増加により、原料として使用されるBPAの供給を拡大するため、今回の増設に1300億ウォンを投資する。2012年末に竣工予定。BPAは、家電製品、携帯電話、自動車部品用途のポリカーボネート樹脂の原料の他に、コーティング材料、電気絶縁材料、風力発電ブレード用途などのエポキシ樹脂原料として使用される。また、同社はBPAの原料となるフェノールとアセトンの生産能力も増強する計画があり、2013年末に竣工予定となっている。増設後の能力は、フェノールが70万トン/年、アセトンが40万トン/年になる。

「スチレンモノマー、国内出荷は3ヶ月連続で減少 = 日本スチレン工業会」

日本スチレン工業会が発表した3月のPS/SM需給統計によると、3月のPS生産は5万5674トンと前年実績を7%下回った。国内出荷は前年同月を3%上回る6万2089トンとなった。内訳を見ると、包装用は前年同月を5%上回り、FS用は12%上回った。電機工業用は19%下回ったが、雑貨・産業用は19%増とプラスに転じた。輸出は前年同月比47%減。出荷合計は6万3638トンと前年同月とほぼ変わらず。月末在庫は6万9254トンと前年同月を10%下回る水準。

一方SMは、生産は前月に続き減少したが、前年同月に比べると19%上回っている。国内出荷は10万3434トンと3ヶ月連続で減少し、前年実績を12%下回った。用途別では、主力のGP/HI向けは4ヶ月ぶりに前年実績を下回った。EPS向けは8%、合成ゴム向けは1%、UPER向けは25%、ABS向けは22%、その他向けは15%それぞれ前年同月を下回った。輸出は前月比32%増の14万2672トン。前年同月を29%上回っている。出荷合計は前年同月比8%増の24万6106トン。月末在庫は9万2286トンとなり、5ヶ月連続で前年実績割れとなった。

(単位:トン)

	PS					SM				
	生産	内需	輸出	出荷合計	月末在庫	生産	内需	輸出	出荷合計	月末在庫
Oct-10	56,991	56,328	2,350	58,678	75,274	260,367	123,647	141,476	265,123	97,410
Nov-10	51,835	61,362	1,805	63,167	63,942	235,435	128,246	128,649	256,895	79,678
Dec-10	60,038	59,723	1,047	60,770	63,210	292,968	133,794	152,858	286,652	86,780
Jan-11	66,190	54,434	1,824	56,258	73,142	275,411	130,609	136,494	267,103	98,907
Feb-11	63,654	57,396	2,182	59,578	77,218	249,286	129,653	108,327	237,980	108,231
Mar-11	55,674	62,089	1,549	63,638	69,254	235,071	103,434	142,672	246,106	92,286

(出所:日本スチレン工業会)

「2月のPMMA輸入単価、安値トップ10」

2011年2月のPMMA輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比144トン増の311トン、輸入価額は1億0280万円となった。原産地別輸入数量の割合は、シンガポールが26%、中国が21%、台湾が20%、韓国が16%、ドイツが15%となっている。価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前月比35円高の330円/kg。貿易統計上のPMMA統計値は、一般品と付加価値品との区別は出来ないが、税関別や国別に分けることで汎用性の高いグレードの輸入単価が概ね予想可能となる。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10は、右表のとおり。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

税関	国名	2011年2月		CIF JAPAN	
		数量 (kg)	価額 (1000円)	単価 (円/kg)	単価 (ドル/MT)
東京	台湾	46,600	10,219	219	2,629 - 2,682
大阪	シンガポール	80,000	19,484	244	2,920 - 2,979
横浜	台湾	16,000	3,910	244	2,929 - 2,989
中部国際	香港	1,500	380	253	3,037 - 3,098
新潟	中国	54,000	14,214	263	3,155 - 3,219
横浜	韓国	45,000	12,076	268	3,217 - 3,282
大阪	ドイツ	18,000	4,851	270	3,231 - 3,296
横浜	米国	875	338	386	4,631 - 4,725
東京	中国	10,000	3,944	394	4,728 - 4,824
東京	ドイツ	10,000	4,053	405	4,859 - 4,957

(出所:財務省)

Daily Market Report

「2月のPOM輸入単価、安値トップ10」

2011年2月のPOM輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比269トン減の968トン、輸入価額は1億8328万6000円となった。原産地別輸入数量の割合は、米国が50%、タイが15%、台湾が9%、韓国が8%、中国が7%となっている。価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前月比18円安の189円/kg。貿易統計上のPOM統計値は、用途での区別は出来ないが、税関別や国別に分けることで汎用性の高いグレードの輸入単価が概ね予想可能となる。マーケットから大きく異なる輸入品は掲載対象から外す。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10は、右表のとおり。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

税関	国名	2011年2月		CIF JAPAN	
		数量 (kg)	価額 (1000円)	単価 (円/kg)	単価 (ドル/MT)
宇都宮	米国	270,438	33,674	125	1,493 - 1,523
清水	ドイツ	11,000	1,401	127	1,527 - 1,558
名古屋	中国	5,000	647	129	1,551 - 1,583
横浜	米国	121,600	18,436	152	1,817 - 1,854
四日市	タイ	51,000	8,049	158	1,892 - 1,930
川崎	タイ	81,000	12,865	159	1,904 - 1,943
横浜	オランダ	31,000	5,462	176	2,112 - 2,155
大阪	米国	8,000	1,481	185	2,219 - 2,264
名古屋	韓国	48,000	9,018	188	2,252 - 2,298
東京	タイ	17,000	3,234	190	2,280 - 2,327

(出所:財務省)